

Simulink Compiler 使い方紹介

MathWorks Japan アプリケーションエンジニアリング部

R2023a



Simulink Compilerとは

MATLABアプリ内でSimulinkモデルを実行できるようにします



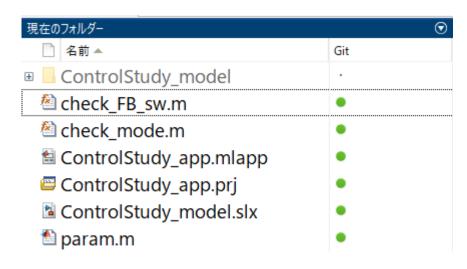


本サンプルモデルを使うために必要なツールボックス

- MATLAB バージョンR2023a以降
- Simulink
- MATLAB Compiler
- Simulink Compiler



1. File ExchangeやGitHubからダウンロードしたフォルダを解凍し、「PID_tuning_Boot_Camp」フォルダを作業フォルダに指定します



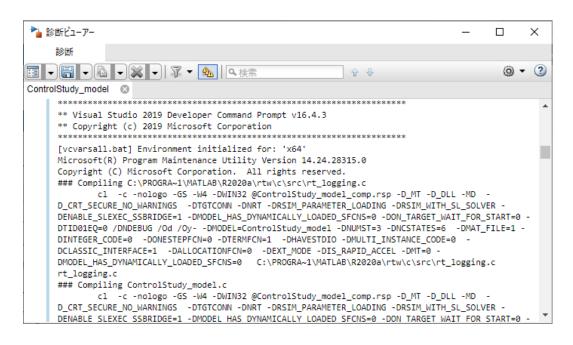


2. 最初に"param.m"を実行し、"ControlStudy_model.slx"を開いて実行します。

モデルはラピッドアクセラレータモードで実行できなければなりません。mexコンパイラがインストールされていない場合も、この段階でエラーとなります。その場合はコンパイラをインストールしてください。

参考リンク: https://jp.mathworks.com/help/matlab/matlab_external/install-mingw-support-package.html

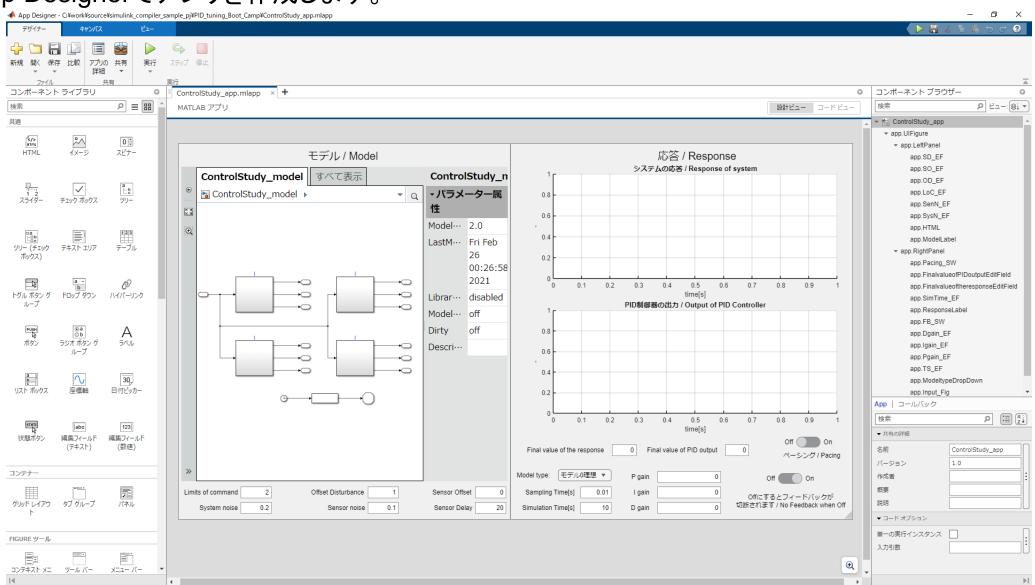
モデルを実行することで実行ファイルが生成されます。App Designerがその実行ファイルを認識できない場合、エラーとなります。App Designerを開く前に必ずモデルを一度実行してください。





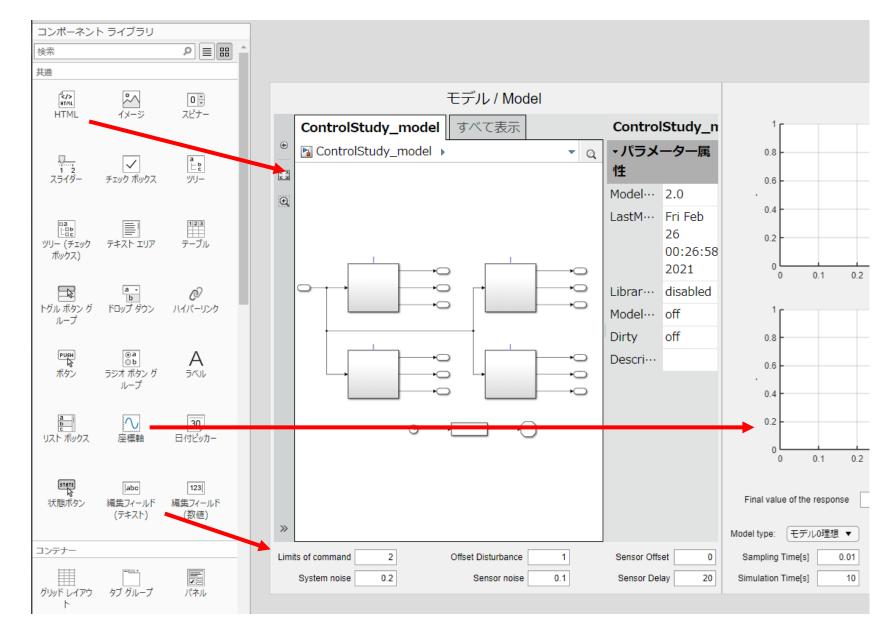
3. "ControlStudy_app.mlapp"を開きます。

App Designerでアプリを作成します。





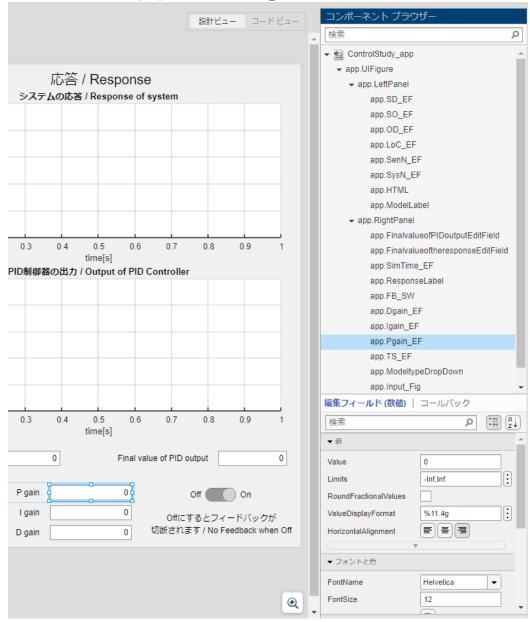
【補足】App Designer コンポーネントの配置



設計ビューの各要素は左のコンポーネントライブラリからドラッグ&ドロップして配置することができます。



【補足】App Designer コンポーネントのパラメータ



コンポーネントをクリックして選択状態にすると、右側のコンポーネントブラウザーに詳細が表示されます。

コンポーネントブラウザーでコンポーネントの各パラメータを設定することができます。

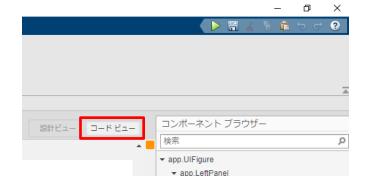


【補足】App Designer コンポーネントのコールバック

コンポーネントブラウザーのコールバックをクリックし、▼をクリックすると、新規にコールバックを追加することができます。



上記で作成したコールバックは、値が変更・確定された時に呼び出される処理になります。



コールバックを含む、アプリの処理はMATLAB言語で記述されており、左図のコードビューをクリックすることで確認できます。

設計ビューをクリックすると、元のアプリのデザイン画面に戻ります。



4. Simulinkモデルに対する入力、パラメータ変更、実行、出力処理を記述します。

"ControlStudy_app.mlapp"のコードビューの「function calc_simulation(app)」をご参照ください。

「Simulink.SimulationInput(model_name);」で、そのモデルに対する設定などを定義した構造体を作成します。

「simin_data = simin_data.setVariable('TimeStep', app.TS_EF.Value);」では、上記構造体内に定義されているモデルのパラメータを変更しています。

「simin_data = simin_data.setModelParameter('SimulationMode', 'Rapid');」
「simin_data = simin_data.setModelParameter('RapidAcceleratorUpToDateCheck', 'off');」は、モデルをSimulink Compilerで扱える、ラピッドアクセラレータの状態に設定しています。

「simout = sim(simin_data);」でモデルを実行し、実行結果を「simout」に格納しています。



シミュレーション途中にコールバックを指定できます。

- 「simulink.compiler.setExternalOutputsFcn」をシミュレーション入力オブジェクトに指定することで、Outportブロックが更新される度に呼び出すコールバックを設定することができます。
- 「simulink.compiler.setPostStepFcn」をシミュレーション入力オブジェクトに指定することで、モデルの1ステップの計算が終わる度に呼び出すコールバックを設定することができます。
- 本サンプルモデルでは、1秒ごとにプロットを再描画するコールバックを作成しました。

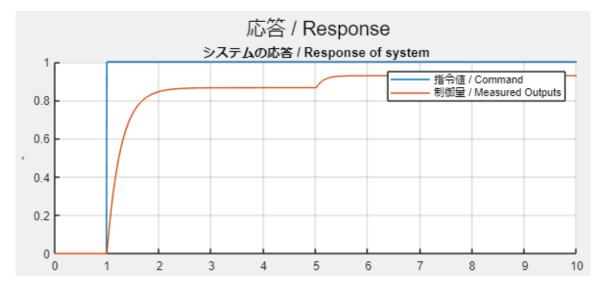


実行中のパラメーター変更

R2021bから、実行中のモデルのパラメーター変更ができるようになりました。

「simulink.compiler.modifyParameters」というコマンドを用いて、モデル名と変更するパラメーターオブジェクトを引数に指定して実行します。

例えば5秒時にPゲインを4から8に変更すると、以下のような応答になります。





シミュレーションペーシング

R2022bから、Simulinkモデルを実時間に比例したペースで実行できる「シミュレーションペーシング」をサポートしています。

'EnablePacing' でシミュレーションペーシングを有効にして、

'PacingRate' でペーシングのレートを決定します。

以下のように、"setModelParameter"というメソッドで設定します。

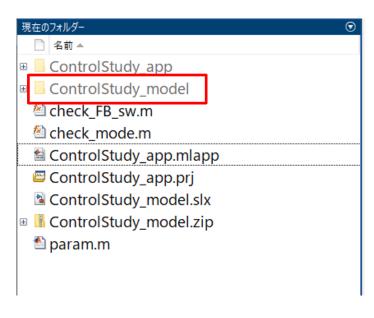
```
% シミュレーションペーシングを設定 / set Simulation Pacing if strcmp(app.Pacing_SW.Value, "On") simin_data = simin_data.setModelParameter('EnablePacing', 'on'); else simin_data = simin_data.setModelParameter('EnablePacing', 'off'); end simin_data = simin_data.setModelParameter('PacingRate', 1);
```



【参考】Simulinkモデルのキャンバスについて

Simulinkモデルのキャンバスは、アプリで直接可視化することはできません。 そこで今回は、Simulink Report Generatorを用いてモデルをhtml形式で出力し、それをアプリから 開くことで可視化します。

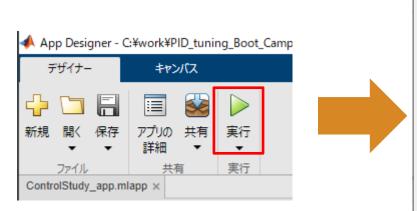
Simulink Report Generatorをインストールされていない方のために、html出力済みのファイルを事前に用意しています。「ControlStudy_model」フォルダをご確認ください。

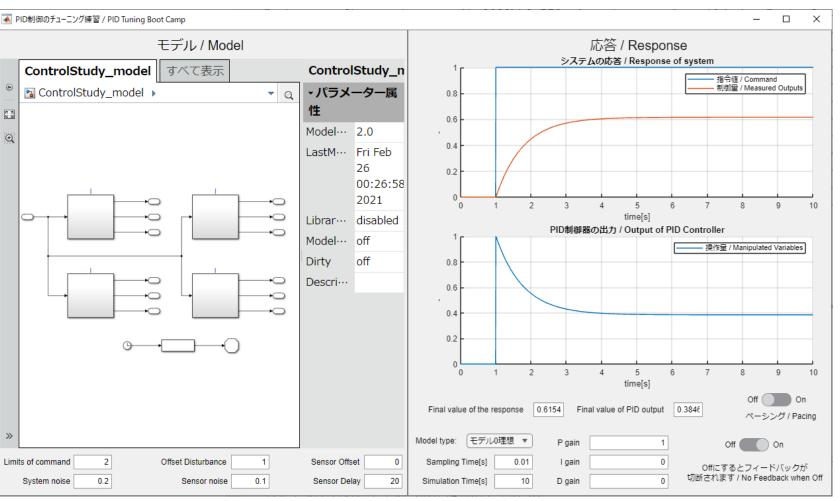




5. アプリを実行し、正しく動作することを確認する。

アプリ作成後、想定通り動作しているかを確認するため、実行ボタンをクリックし、アプリを起動します。





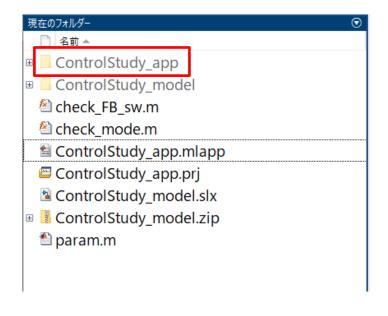


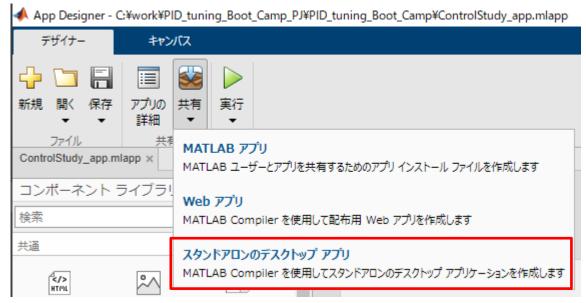
6. アプリをエクスポートする。

アプリが想定通り動作していることを確認した後、必要に応じてエクスポートします。 今回はスタンドアロンのデスクトップアプリ(Windows用)を作成します。

フォルダの中にはすでにアプリ化されたファイルを含む「ControlStudy_app」フォルダが存在します。 アプリ作成を行うと自動的に上書きされますので、必要であれば別フォルダへ退避させてください。

デザイナータブの共有、スタンドアロンのデスクトップアプリをクリックします。

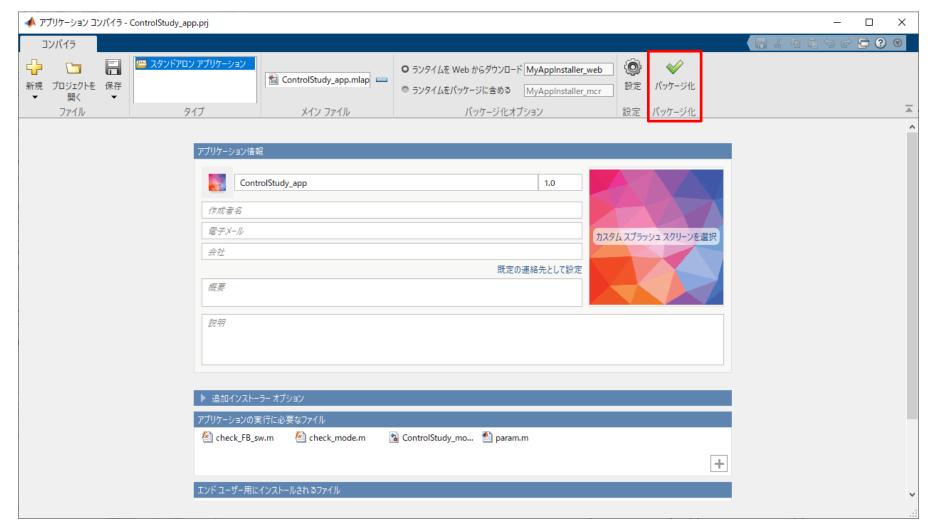






6. アプリをエクスポートする。

今回はデフォルト設定で問題ありませんので、このままパッケージ化をクリックします。



以下のように表示されれば、問題なくパッケージ化 完了です。



警告マークがありますが、これ は外部参照のhtmlファイルが含 まれていないため、発生してい ます。次スライドにて、そのファ イルを追加します。



7. モデルのWebビューファイルをコピーする。

スタンドアロンのアプリは「ControlStudy_app」フォルダの「for_redistribution_files_only」に格納されています。

モデルのWebビューファイルー式が格納されている「ControlStudy_model」フォルダを「for_redistribution_files_only」にコピーします。

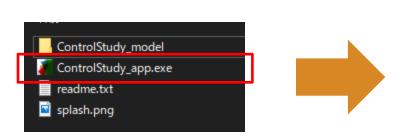
アプリは同じ階層にある「ControlStudy_model」内の「webview.html」を開くように設定されているため、常に同じフォルダ階層に置くようにしてください。

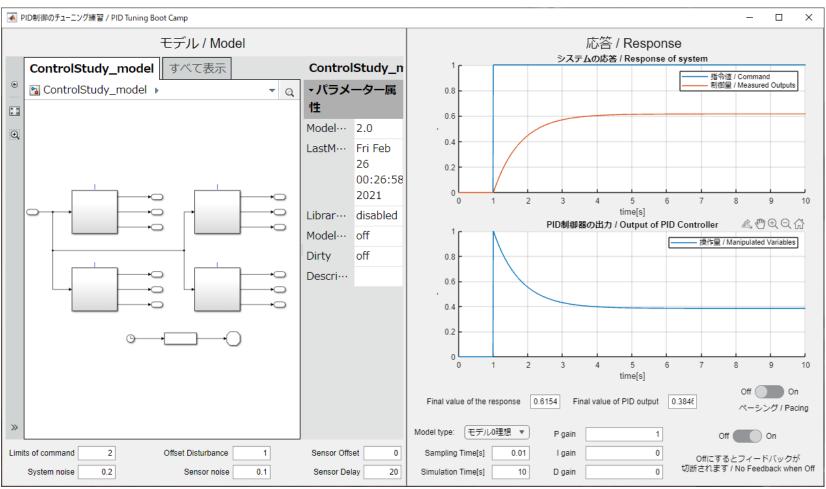
k > PID_tuning_Boot_Camp_PJ > PID_tuning_Boot_Camp > ControlStudy_app > for_redistribution_files_only				∨ ♂
名前	更新日時	種類	サイズ	
ControlStudy_model	2020/03/30 13:14	ファイル フォルダー		
ControlStudy_app.exe	2020/03/30 16:09	アプリケーション	3,564 KB	
readme.txt	2020/03/30 16:09	テキスト ドキュメント	2 KB	
🖬 splash.png	2015/06/25 22:08	PNG ファイル	52 KB	



8. "ControlStudy_app.exe"を実行して動作を確認する。

ControlStudy_app.exeが、今回作成されたWindows用のスタンドアロンアプリです。アプリを起動し、想定通り動作していることを確認します。







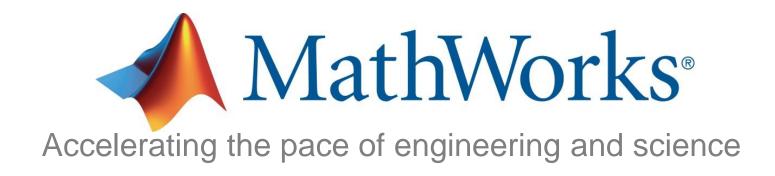
【参考】MATLAB Runtimeのインストール

今回作成したアプリをMATLABがインストールされていないPCで実行したい場合は、MATLAB Runtimeをインストールする必要があります。Runtimeは無料でインストールすることができます。 以下のリンク先を参考にインストールを行ってください。

https://jp.mathworks.com/products/compiler/matlab-runtime.html

今回作成したアプリはR2023aで作成されたものなので、R2023aのMATLAB Runtimeをインストールしなければなりません。





© 2023 The MathWorks, Inc. MATLAB and Simulink are registered trademarks of The MathWorks, Inc. See www.mathworks.com/trademarks for a list of additional trademarks. Other product or brand names may be trademarks or registered trademarks of their respective holders.